

釧路市教育委員会 令和7年第23回12月定例会会議録

- 1 日時：令和7年12月23日（火）13時30分から15時00分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者  
岡部義孝教育長  
(教育委員)  
大山稔彦委員、靱山彩子委員、金安真人委員  
(事務局)  
澤口学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、司口学校教育部次長、臺野施設計画主幹、小西学校教育課長、三浦教育政策主幹、渡部給食担当主幹、大島学校指導課長、齊藤総括指導主事、鈴木北陽高等学校長、及川北陽高等学校事務長、曾根美術館長、内海生涯学習課長、鈴木動物園長、長谷地音別教育事務所長、辰山スポーツ課総括係長、小松阿寒教育事務所総括係長
- 4 議事録署名人 大山委員 金安委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

議案第83号 釧路市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則

報告事項

- (1) 令和7年第6回釧路市議会12月定例会の議決結果について
- (2) 令和7年第6回釧路市議会12月定例会の審議内容について
- (3) 学びの多様化学校にかかる入学・転入学審査の実施状況について
- (4) 友好都市鹿児島県出水市・釧路市文化交流事業について
- (5) 第98回日本学生氷上競技選手権大会の釧路開催について
- (6) ホッキョクグマ「マルル」の来園について
- (7) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】

議案第83号 釧路市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則

(大島学校指導課長)

議案第83号、釧路市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について説明する。

本案は、来年4月に開校を予定している学びの多様化学校を設置するに伴い、所要の改正をしたく提出するものである。学びの多様化学校については、釧路市議会12月定例会において、「釧路市立学校設置条例の一部を改正する条例」が承認されたところであり、それに関わって、「釧路市立学校の通学区域に関する規則」の一部を改正する議案を提出するものである。改正の内容については、市内のすべての地域から通学できるよう、第3条の通学すべき学校の指定において、「くしろ創明学園に入学しようとする者にあつてはくしろ創明学園」を加えるものとなる。施行日については、学びの多様化学校の開校に合わせて令和8年4月1日としている。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された

### 【公開案件】 報告事項

- (1) 令和7年第6回釧路市議会12月定例会の議決結果について
- (2) 令和7年第6回釧路市議会12月定例会の審議内容について

(司口学校教育部次長)

報告事項1、令和7年第6回釧路市議会12月定例会の議決結果について報告する。

先月の教育委員会において承認いただいた2件の補正予算案及び議案第128号の「釧路市立学校設置条例の一部を改正する条例」については、すべて原案どおり可決された。

続いて報告事項2、令和7年第6回釧路市議会12月定例会の審議内容について報告する。

令和7年第6回釧路市議会12月定例会の一般質問については、市民連合議員団木村勇太議員より「部活動の地域移行について」、公明党議員団松原慶子議員より「釧路商業高等学校と釧路明輝高等学校の再編統合について」、自民市政クラブ夏堀めぐみ議員より「「未来の人づくり」への投資について」、公明党議員団河合初恵議員より「釧路市とイオンの連携協定及び循環型社会について」、日本共産党議員団西村雅人議員より「学校給食について」、自民市政クラブ大澤恵介議員より「公共資源の広域活用について」、無所属木村隼人議員より「特別天然記念物タンチョウの保全及び太陽光発電施設について」、市民連合議員団宮田団議員より「事務事業の見直しについて」、公明党議員団松橋尚文議員より「メガソーラー問題について」、日本共産党議員団村上和繁議員より「不登校及び就任1年を節目とした市長の公約実現

と政治認識について」、自民市政クラブ山口光信議員より「高校教育の環境と将来の在り方について」、日本共産党議員団梅津則行議員より「キタサンショウウオの保全対策について」それぞれ質問をいただき、答弁を行った次第である。尚、詳細については資料6～36ページに質疑要旨を掲載している。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

#### 【公開案件】報告事項

##### (3) 学びの多様化学校にかかる入学・転入学審査の実施状況について

(大島学校指導課長)

報告事項3、学びの多様化学校にかかる入学・転入学審査の実施状況について報告する。

はじめに、申請期間及び個別相談の延長についてである。個別相談の中で、検討にもう少し時間が欲しいという相談をいくつか受けたことから、12月2日を期日としていた申請期間を教員配置等の事務作業に支障をきたさない範囲である、1月16日まで延長する。また、申請期間の延長に合わせて、個別相談の期間も1月16日まで延長している。

続いて、個別相談の実施についてである。不登校に至った経過や背景は、児童生徒ごとにそれぞれ違うこともあり、保護者説明会の場合には、質問しづらい状況も想定されたことから、10月14日以降に教育委員会内において個別に相談を受ける場を設けた。個別相談会には13件の申し込みがあり、内訳は今年度の学年で、小学6年生が1件、中学1年生が6件、中学2年生が6件となっている。主な相談内容は、人前で話すことが苦手な子への配慮はどういうことになっているのか、学びの多様化学校へ入学できなかった場合のサポート体制というところに質問があった。

次に、入学・転入学の申請状況についてであるが、資料では13件となっているが、昨日一件申請があったことから、今日現在の内訳は、今年度の学年で、小学6年生が3件、中学1年生が3件から4件に増え、中学2年生が7件の計14件となっている。また、12月2日までに申し込みのあった13家庭においては、今月13日から22日の間で教育委員会面談を実施したところである。教育委員会面談では、保護者と児童生徒別々に面談し、児童生徒には心理士による今の自分の状態をチェックするストレスチェックを行った。この面談で児童生徒の状況が学びの多様化学校の教育課程や支援内容と合っているのかをしっかりと見極めたうえで、教育委員会内の指導主事や心理士などで構成する入学・転入学審査会を明日12月24日に開き、入学者を決定していく予定である。審査会で審査した家庭には、年内に決定通知書を送付する予定である。また、今後受理した申請については、別途面談と審査会を開催し、対応してまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(靱山委員)

入学や転入学の承認を得た後、児童生徒本人もご家族の方も、期待などプラスの感情があるかと思うが、逆に新生活への不安もあるかと思う。これは既存の学校における入学や転入学と同様、当初は不安な面も多い中で、今回は特に新設校ということであり、その不安はより強いと思う。例えば承認後から入学までの間に、体験入学のようなものを実施するなどのフォローがあると良いかと思う。よろしくお願ひしたい。

(大島学校指導課長)

13名と面談を実施した中で、当初決定通知については、来年の1月中旬に送ると説明していたが、年を越す中で待っている不安な気持ちが感じとれたことから、前倒しで年内に発行事務を行うことで決定したところである。併せて何か困ったことがあればいつでも電話をいただくよう伝えており、面談もいつでも実施可能であり、電話も細かい質問で良いから色々伝えてほしいとお願ひしている。2月の下旬には入学者説明会を実施する際に、可能かどうかについては不明であるが、例えば今いただいた意見として、中央小学校を会場として行うことも参考にさせていただき、進めたいと思う。

(大山委員)

釧路市が不登校について十分に理解していることを、創明学園の生徒、保護者が理解できるような学校体制で進めていただきたいと思う。私たちも協力していきたいと思うので、ぜひよろしくお願ひしたい。

(岡部教育長)

実際に学校が動き出すと学校見学等も可能となってくるが、現状、そこまでは無理であることから、我々も色々と考え、走りながら進めていくことにならざるを得ないので、今後も引き続き、教育委員会の場でも学びの多様化学校の進捗については、適宜報告をさせていただきたいと思っている。

#### 【公開案件】報告事項

##### (4) 友好都市鹿児島県出水市・釧路市文化交流事業について

(内海生涯学習課長)

報告事項4、友好都市鹿児島県出水市・釧路市文化交流事業について報告する。

鹿児島県出水市とはツルが取り持つ縁で、平成元年8月22日に友好都市提携を締結しており、平成3年度から出水市、釧路市双方の文化団体及び市関係者等が2年に一度、相互に訪問のうえ文化交流事業を実施している。前回の交流事業は、令和5年度に出水市の方々をお迎えし、釧路市生涯学習センターなどを会場として「文化の交歓大会」や歓迎レセプションなどを開催したところであり、今年度は、当市が出水市を訪問する周期となることから、鶴間市長、岡部教育長、文化団体関係者などとともに出水市を訪問し、文化交流を深めてまいりたいと考えている。

今回の交流事業については、令和8年1月23日(金)から25日(日)までの期間、出

水市文化会館などを会場に開催する予定となっている。内容としては、両市の文化団体が制作した作品をあわせて展示する「交流展示会」や、能楽や民謡、日本舞踊、太鼓といった、両市の伝統芸能をステージで披露しあう「芸能交歓大会」を開催するほか、歓迎レセプションなどに参加し、出水市の文化団体や行政関係者との交流を深める予定となっている。今回の訪問を通じて、両市の文化団体による相互交流はもとより、地域の様々な文化に触れあう機会となることから、両市の親交をより深め、友好機運のさらなる醸成を図っていききたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

#### 【公開案件】報告事項

##### (5) 第98回日本学生氷上競技選手権大会の釧路開催について

(辰山総括係長)

報告事項5、第98回日本学生氷上競技選手権大会の釧路開催について報告する。

本年7月の定例教育委員会において、本大会の実行委員会の設立及び大会概要について報告していたが、令和8年1月4日から、第98回インカレ、スピードスケート競技が釧路市で開催される。大会日程としては、1月4日(日)にコーチャンフォー釧路文化ホールにおいて開会式を執り行い、1月5日(月)から7日(水)の3日間、柳町スピードスケート場において競技が開催される。本大会へは全国各地から16大学、約230人が参加予定となっており、そのうち11大学が大会事前合宿を実施する予定であると伺っている。事前合宿による宿泊を含めると、本大会に係る延べ宿泊人数は約1,600人泊となる見込であり、宿泊需要閑散期における経済効果につながるものと考えている。

現在、開催当日に向けて地元競技団体等と連携しながら準備を進めているが、大会開催期間中には、出場選手へスポーツ飲料水を差し入れするなど、来釧される選手、監督、役員の皆様に「おもてなしの心」をもってお迎えする。本大会の開催を通じて、参加大学をはじめとする競技関係者の皆様に当市の施設環境や合宿地としての魅力を発信するほか、当市におけるスピードスケート競技の普及振興や競技力の向上を図ってまいりたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(岡部教育長)

インカレの開催は何年ぶりになるのか。

(辰山総括係長)

6年ぶりとなり、前回は令和元年の開催である。

(岡部教育長)

前回はフィギュアスケートもあり、坂本花織選手や樋口新葉選手が釧路市で滑っていた。

今回はスピードスケートの1種目となるため、前回とは異なるインカレになるかと思うが、教育委員の皆様もご観戦いただければと思う。

(金安委員)

おもてなしに小中学生が関与する予定はあるのか。

(辰山総括係長)

冬休み期間中でもあることから、今のところ予定はない。

(金安委員)

ふるさとキャリア教育としても良いきっかけになるかと思う。氷都釧路というスポーツを入口とした釧路市の良さを小中学校や高校生まで広げる等、先ほどの友好都市鹿児島県出水市・釧路市文化交流事業も含め、様々な事業で入れ込むことができるのではないかと考えている。ふるさとキャリア教育と言われると身構えてしまうところもあるかと思うが、違う角度から工夫し入れ込むことができないかと思うので、今後、教育委員会全体として、そのような機会があれば検討いただきたいと思う。

(工藤生涯学習部長)

これまでの氷上競技選手権大会においては、各国体を行ったことがあり、その時には各学校が1つの県を応援するため旗を作成するなど、そういった形式で都道府県と連携した実績がある。ただ今回はインカレであり、あくまで学生が釧路に来ていただき大会を実施するものであることから、私たちはあくまで運営のサポートを行うことになる。また今回はスピードスケートのみということであり、これがアイスホッケー、フィギュアスケート等も加わるともっと大きな形でできるのだが、今回はスピードスケートに限られているため、そこまで手を広げることができる状態ではないところであるが、今後はそういった子どもたちとの交流を含めながら、事業のPR、機運醸成につながるような方策を考えていきたい。

(金安委員)

例えば今回のスピードスケートに絞れば、出身の小中学校を調べ、ポスターを掲示すると同時にこの小中学校出身の選手が出場するなどの仕掛けがあることにより、スピードスケートに興味がない人にも気付いていただくきっかけになると思うので、様々な事業に少しの工夫を入れ込んでいくことが考えられるかと思った。

(工藤生涯学習部長)

大学ではOB同窓会があり、そこへ情報を提供して応援にきていただくなどの取組を行っていたという経過はあるが、インカレにおける子どもたちをターゲットとした取組は行っていなかったため、今の意見を参考とさせていただきたい。

(岡部教育長)

今から釧路ゆかりの選手情報は難しいと思うが、すくすくメールを使用して開催期間やリンク等を掲載し、時間があればご観戦下さいと伝えることはできるかと思う。そのような対応は可能か。

(齊藤総括指導主事)

対応可能である。

(工藤生涯学習部長)

今回のスピードスケートにおいて、管内出身の方は何名かいるが、純然たる釧路市出身というのは1名である。しかし、私も子どもの頃釧路で国体があったことを今でも覚えているので、子どもたちの関わりは大切であると思っている。

(岡部教育長)

足を運んでいただくことにより、全国から選手が集まってきている状況から、金安委員のお話のようなふるさと意識が高まることもあるかと思うため、まずは情報発信を行っていただければと思う。

(靱山委員)

釧路市民や釧路管内の方々に対する周知はされるのか。

(辰山総括係長)

歓迎看板により1月4日から釧路市で大会があることの掲示をお願いしている。

(工藤生涯学習部長)

観光コンベンション協会と連携し、ホテルや各公共施設に歓迎の掲示はあるが、ポスターを作成するなどの動きはない。お金をかけずに市のホームページは使ってPRは行うが、大きなPRは今のところ行っていないというのが現状である。

#### 【公開案件】報告事項

##### (6) ホッキョクグマ「マルル」の来園について

(鈴木動物園長)

報告事項6、ホッキョクグマ「マルル」の来園について報告する。

このたび、熊本市動植物園で飼育されていた、メスのホッキョクグマ「マルル」について、公益社団法人日本動物園水族館協会が策定・運用しているホッキョクグマ種別管理計画に基づき、国内で飼育されている個体全体の血統管理や将来的な繁殖の可能性、飼育環境の適正化などを総合的に考慮した調整が行われた。その結果、釧路市動物園への移動が決定され、マルルは12月8日に熊本市動植物園を出発し、輸送檻に収容された状態で移動を行った後、12月11日に無事、釧路市動物園へ来園した。来園後は、新しい環境への順応を図りながら健康状態の確認を行うため、12月末までを馴致期間として非公開とし、十分な観察と体調管理を経たうえで、令和8年1月3日から一般公開を予定している。なお、釧路市動物園では、令和6年11月にオスのホッキョクグマ「キロル」が死亡して以降、約1年ぶりのホッキョクグマの飼育再開となる。マルルの来園により、再びホッキョクグマの魅力を来園者の皆様に伝えるとともに、地球温暖化をはじめとする環境問題について考えていただく学習の機会を提供できるものと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

## 【公開案件】 報告事項

### (7) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項7、学校の現状について報告する。

市内の小・中・義務教育学校は12月27日から1月13日までの間、冬休みに入る。インフルエンザやコロナが流行し、学級閉鎖、学年閉鎖が例年になく11月初めから多発したが、通知表の発行は2学期制をとっている学校が多く、期末評価業務には大きな混乱がなく冬休みを迎えようとしているところである。

12月2日、8日と震度4の地震が発生し、管理職による校舎点検などもマニュアルに従って実施されたが、幸い大きな被害はなかった。ただ、今回は最近地震が多発していることに加えて、後発地震注意報が初めて発令されたことも受けて、日常の学校生活は通常通り行方中で、万一に備えて注意喚起をするよう学校には指示をしたところである。

12月10日には、釧路市標準学力検査が行われた。今年度も小学校3年生から中学校2年生までの国語と算数・数学で実施した。結果については1月中旬頃に戻ってくる予定で、まとめ次第、改めて報告する。中学校においては、この後、高校入試にかかわる、いわゆる入選業務が佳境を迎える。学校側の事務ミスによっては生徒の将来を左右しかねないことも十分考えられる。元データの確認の段階から二重、三重のチェック体制と確認を徹底し、事務ミス0を目指すのではなく、ミス0が当たり前という認識のもと、慎重に執り行うことを全教職員で改めて徹底するよう、各中学校長に周知と指導をしたところである。

9月から、ALTが原則、中学校区で1名、大規模中学校区は2名の配置となり、小学校、中学校、義務教育学校での英語、外国語活動の授業で活用している。先日、ALT一人一人と市教委の事務局担当者が面談を実施したところ、「もっと子供たちと関わりたい」「授業でもっと活用してほしい」「給食や休み時間などでも子どもたちとどんどん交流していきたい」などの積極的な意見がありました。もちろん全員の意見ではありませんし、過去には「給食を教室で生徒と共に食べることは契約に入っていないからやらない」などと主張したALTもいましたことから、最終的には個々の考え方、意欲、自己の今後のライフプランなどにも大きく左右されると思う。ネイティブスピーカーとしてのALT活用は、英会話はもちろんだが、交流によってお互いが異文化理解を進めること、それによって子どもたちが自国文化の更なる深い理解と愛着を持つことにもつながることなどが成果として期待される。校長や教頭もALTとの面談や日常の会話を通して、自校担当のALTが今の状況に満足しているのか、もっとこうしたい、こうしてもらいたいとの思いを持っているのかなど、コミュニケーションを十分とって欲しいと校長会議で呼びかけた。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(金安委員)

教育委員会から釧路市内の教員へ一斉に連絡する手段はあるのか。

(本川教育指導参事)

i F u t u r e というシステムを釧路市が導入しており、昨年から使用している。緊急なものや重要なものは指導主事から教員個々に i F u t u r e を使用しメッセージを送っている。

(金安委員)

情報の伝達手段について、ポスターを作成することも大切であるが、例えば今回は氷都釧路の話題があったため、そういった情報を教員へ伝達することができたら、児童生徒との会話の中で氷都釧路を話題として取り上げるなど教育に使える素材は多くあるため、伝達手段はとても大事かと思う。何気ない日常でそういった情報に触れられると、児童生徒の教育にもつながるのかと思う。

(岡部教育長)

金安委員の話を聞き、1人1台タブレットの時代になったことから、今の時代に応じたターゲットの考え方と情報発信の仕方は考えていかなければならないと思った。

(大山委員)

先日、北陽高等学校へ授業参観のため伺った際に3年生が北陽高等学校のPRポスターを作成していた。とても工夫して作成していたため、そちらを小中学校へ送ることはできないかと話をしていたので、ぜひ併せて検討いただければと思う。

(鈴木北陽高等学校長)

私からもよろしくお願ひしたい。商業の科目で作成しており、パソコン上で写真を貼ったり文字を入れたり等、生徒が自由にデザインしてポスター化したものである。

(岡部教育長)

担当同士で調整の上、発信していただきたい。

(靱山委員)

A L T に対し、役割など理解を深めていただく研修は実施しているのか。

(本川教育指導参事)

J E T による事前研修や周知についても実施されていることと思うが、釧路市では従前より A L T だけの研修会を年に数回行っており、道教委においても実施している。また釧路市 E n g l i s h D a y s 事業等の行事に参加いただいた際にも色々な情報提供を行っている。

(靱山委員)

A L T が授業に入った際の展開に関する研修や提案はあるのか。

(本川教育指導参事)

その点が課題であり、A L T が授業に入った際に、上手に A L T を活用できる教員とできない教員がおり、小学校に限らず、中学校の英語教員であっても差が出ているのが現状である。A L T の活用については校長会議や教頭会議、小中学校の英語に関する研修講座においても取り上げているが、残念ながら私たちが授業を拝見したときにおいても、活用されてい

ない場面が見受けられることがあるため、ALTの効果的な活用方法と、教員のスキルアップについては今後も引き続き実施しながら、どういった方法がより良いのか私たちも研究してまいりたい。

(靱山委員)

ALTが加わった授業を拝見した際に、ネイティブな英語の発音を確認するために英語の文章を読むだけのような状態であったと感じた。授業中に児童生徒へ声かけを行うなど、小さなことから始めていただければと感じた。難しい部分もあるかと思うが、よろしくお願ひしたい。

(岡部教育長)

今回の議会においても、ALTに関する質問があり、我々の答弁としては、ALTを活用した授業というのは、9月から始まったばかりであることから、まずは1年のプログラムをALT自身に体験していただいた後に、アンケートという形でALTや教員に聞き取りを行っていくことになることを認識している。どういった改善の在り方があるのかについては、3～4か月程度しか経過していないことからまだそこまでに至っていないことから、今後も教育委員のご意見もいただきながら前進させ、またALTが関わっている授業を実際にご覧いただき、別の角度からご指導いただければと思う。